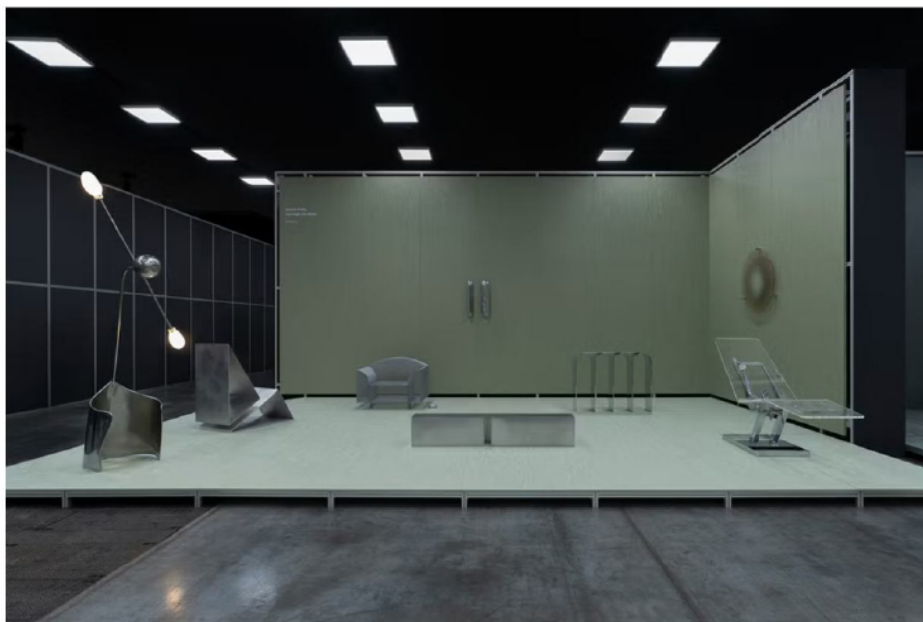


CULTURE > BAZAAR ART

## 「ミラノサローネ2026」に見るデザインの現在地。注目 ブランドと最新潮流をレポート #1

4月21日から26日にかけてイタリア・ミラノで開催された「第64回ミラノサローネ国際家具見本市」。世界最大級のデザインの祭典で出合った、“今”を映し出すデザインを全2回で紹介する。

BY KANAE HASEGAWA 公開日:2026/05/11



COURTESY OF GALERIE PHILIA - ©BRINTH STUDIO

「サローネ・ラリタス」でのGalerie Philiaのブース。

Galerie Philiaは「How High the Moon」というタイトルで、物質、反射、さらに非物質的な存在についての考えをめぐらせるグループ展を企画した。アルミニウム、ステンレススチール、そして銀色を基調とした単一のカラースキームからなる作品群は、均質なようで捉えどころがない。単一だからこそ、モノの形、表面、そこに反射する光が見る者の体験の媒介となっていた。展示のタイトルは倉俣史郎のシンボリックなチェアに由来する。重さ、機能に縛られる物体がどのようにして月のように遠く、無形で、手の届かないものを喚起し得るのかを、展示空間全体を通して考えさせるような企画だった。鏡面仕上げの表面が反射する膜となって会場を訪れる人や周りの環境の断片を捉えて、モノを歪める。モノは自律した物体ではなく、光や動き、そして人の存在によって絶えず再定義される関係性によって成り立つということだろう。